

令和 2年 2月

加藤雅之 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 義 之
副主査 梅 北 善 久
同 磯 本 一

主論文

Peroral cholangioscopy-guided forceps biopsy and endoscopic scraper for the diagnosis of indeterminate extrahepatic biliary stricture

(未確定の肝外胆道狭窄の診断のための経口胆道鏡検査ガイド下鉗子生検および内視鏡スクレーパー)

(著者：加藤雅之、斧山巧、武田洋平、川田壮一郎、菓裕貴、孝田博輝、山下太郎、濱本航、坂本有里、松本和也、磯本一)

令和元年 Journal of Clinical Medicine DOI:10.3390/jcm8060873

参考論文

1. Peroral cholangioscopy of programmed cell death-1 inhibitor-related sclerosing cholangitis: three case reports

(プログラム細胞死-1阻害薬関連硬化性胆管炎の経口胆道鏡検査：3症例報告)

(著者：斧山巧、武田洋平、加藤雅之、枝野未来、樽本亮平、松本和也、磯本一)

令和元年 Endoscopy DOI:10.1055/a-0948-1271

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肝外胆管癌（ECC）の病理学的診断における経口胆道鏡（POCS）と新規内視鏡用軟性生検鉗子（Trefle®）の有用性について比較検討したものである。その結果、ECCの病理学的診断においてTrefle®生検とPOCS下生検は同程度の診断能および安全性であること、またTrefle®は不必要な乳頭処置を要しない点で有用である可能性があることが判明した。本論文の内容は、消化器病の分野で、ECCの病理学的診断の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。